

カリアリケレバ、殿座ヲタチテイデサセ給トテ、大聲ヲハナチテノ給ハク、藤氏ノ上達部、ミナマカリタテ、春日大明神ノ御威ハ、ケフウセハテタルゾト、イヒカケテ出給ケレバ、○下

〔本朝法華驗記〕上第十九法性寺尊勝院供僧道乘法師

沙門道乘叡山寶幢院西明房正算僧都弟子也、○中天性急惡、不忍過咎、僮言罵詈弟子童子、息恚心

後叩頭悔歎、流淚發露、或對佛像、實心改悔、或對大衆、誠心陳懺、○下

〔今昔物語〕十九藥師寺舞人玉手公近、值盜人存命語第卅六

今昔藥師寺ニ有シ舞人右兵衛尉玉手公近ハ、舞人トシテ、年來公ケニ仕テ、○中年九十二成マ

デ、念佛ヲ申シテ死ニケル時ノ作法、現ニ極樂ニ參ヌト見ヘケリ、一生ノ間腹立ツト云事无シ、

極テ貴カリシ者也、

〔十訓抄〕十一條攝政伊尹納言に任給時、朝成同く望申けり、其間頗放言申けり、攝政の後朝成大

納言を望申て、彼殿へまいてけり、良久しくありて面謁し給とき、朝成大納言になるべき理運を

申されけるに、攝政の給はく世間計がたし、往事のころほい納言望申時、放言有といへども、貴閣

昇進我心に任たりとばかりの給て入給にけり、朝成大にいかりて門を出て車に乗とて、先笏を

車になげ入れれば、破て二つに成にけり、

〔玉海〕元暦二年○文治元年十二月卅日己卯、招定能卿、示合法皇逆鱗之間事、卽以其息親能卿、可申入之

由示付了、

〔吾妻鏡〕十二建久三年十一月廿五日甲午、早旦熊谷次郎直實與久下權守直光、於御前遂一決、是武

藏國熊谷久下境相論事也、直實於武勇者雖施一人當千之名、至對決者不足、再往知十之才、頗依貽

御不審、將軍家○源朝類、度々有令尋問給事、于時直實申云、此事梶原平三景時引級直光之間、兼日申入

道理之由歟、仍今直實類預下問者也、御成敗之處、直光定可開眉、其上者理運文書無要、稱不能左右、